

2025 年 5 月 16 日
公益財団法人 阪急文化財団

オンライン絵巻物鑑賞サイト

「デジ絵巻～奥の細道画卷～」を公開します

阪急文化財団が運営する逸翁美術館は、多くの絵巻物作品を収蔵しておりますが、長尺の絵巻物はすべてを広げて展示することが難しいため、昨年度よりオンラインで絵巻物が鑑賞できる Web サイト「デジ絵巻」を開設し、第一弾として鬼退治の話として知られる重要文化財「大江山絵詞」2巻を掲載いたしました。

本年度は第二弾として、重要文化財の与謝蕪村「奥の細道画卷」2巻を掲載します。

松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」を蕪村が全文書写し俳画風の挿図を添えた「奥の細道画卷」は複数存在しますが、逸翁美術館が収蔵しているのは最も遅い安永8年（1779）に制作されたもので、巻末には蕪村に師事した呉春の「極書」（鑑定書）が付されています。

絵巻物鑑賞の醍醐味は、物語を読み進めながら、それが絵画ではどのように描き表されているかを楽しむことにあります。「デジ絵巻」では、書かれた物語（「詞書」）と描かれた絵画とをスクロールしながら見るだけでなく、くずし字や歴史的仮名遣いで書かれた「詞書」を現代語表記に置き換えた「翻字」を上から透かして重ねたり2画面で並べて表示したりすることも可能で、あらすじと場面解説を記載した「ストーリー」を別途表示させながら見ることもできます。拡大して細部を確認したり、「ストーリー」に対応した絵画の場面を開いたりなど、Web サイトならではの楽しみ方も自在で大変好評をいただいております。さらに今回は詠まれた俳句から絵画の場面を開く機能も加えました。

「デジ絵巻～奥の細道画卷～」は、芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出発した日にちでもある本日5月16日（1689年、旧暦元禄2年3月27日）14時より公開しますので、ぜひ一度ご覧ください。

【デジ絵巻】<https://archives.hankyu-bunka.or.jp/digi-emaki/>

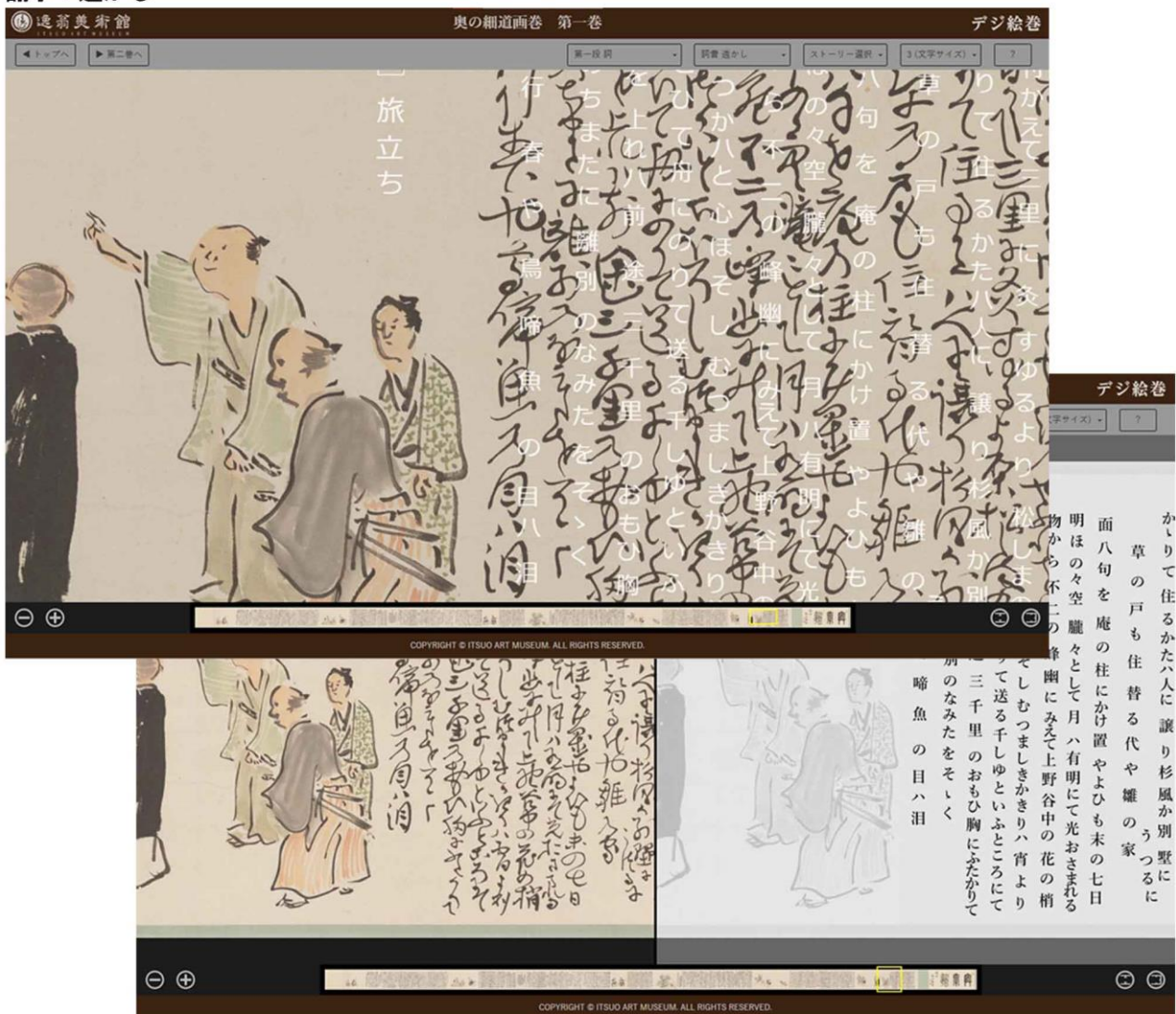
なお、逸翁美術館で4月12日より開催中の展覧会「四条派ですが、実は一詩情派。呉春」は、展示替えを行い本日5月16日から6月15日まで後期日程となりますので、こちらの方にも足をお運びいただければ幸いです。

【開催中の展覧会】<https://www.hankyu-bunka.or.jp/itsuo-museum/exhibition/20250412/>



旅立ちの場面。図の右手に俳句「行春や鳥啼魚の目ハ泪」

翻字：透かし



翻字：並べ

ストーリー表示

逸翁美術館 ITSUO MUSEUM 奥の細道画卷 第一巻 デジ絵巻

第一巻 詞書(詞字) ストーリー 3(文字サイズ) ?

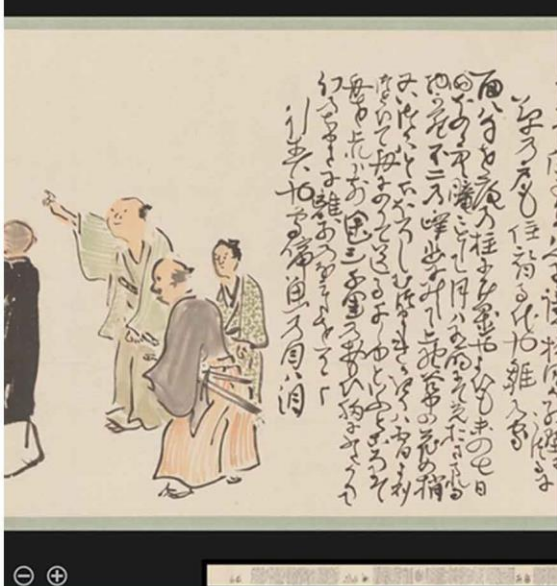
親子の家になることだろう
続く連綿の表八句を草庵の柱に掛けて残した。

三月二十七日、曙の空は曉に霞み、有明の月は白みかけ、遠く富士山が雨かに見えて、「上野や谷中で見た桜の花も、次は何時見られることか」と心が割る。親しい昔ばかりが昨夜から集まり、舟に乗って送ってくれる。千住(東京都足立区)という所で舟から上がると、「これから前途三千里の旅だ」との思いに胸がいっぱいになり、夢幻であるはずの世間と離れることにささ涙が流れる。

行春や鳥啼魚の目は泪

(行く春とともに旅立つことに、鳥も鳴き騒ぎ、魚も目に涙を浮かべて、一緒に別れを悲しんでくれているのだね)

【千住】を出立する場面。右方に見送る五人、少し間を空けて左方に芭蕉と曾良との二人、見送りの五人はそれぞれにポーズを取り、何やらタガが外れたかのような哀感が漂う。一人が片手を差し上げて連綿る芭蕉たちを惜ましく仕舞う。左右の人々を間接づける。人物は細やかに描かれ、左端の芭蕉には超然とした表情までもが読み取れる。芭蕉は杖を左方に傾け、右足に重心を載せて前傾姿勢となり、歩を進めている様子を表す。



Copyright © ITSUO ART MUSEUM. ALL RIGHTS RESERVED.

俳句検索

逸翁美術館 ITSUO MUSEUM 奥の細道画卷 第一巻 デジ絵巻

第一巻 詞書(詞字) 俳句索引 5(文字 最大) ?

しばらくは滝にこもるや夏の初
刺すてくろかみ山に更衣曾良

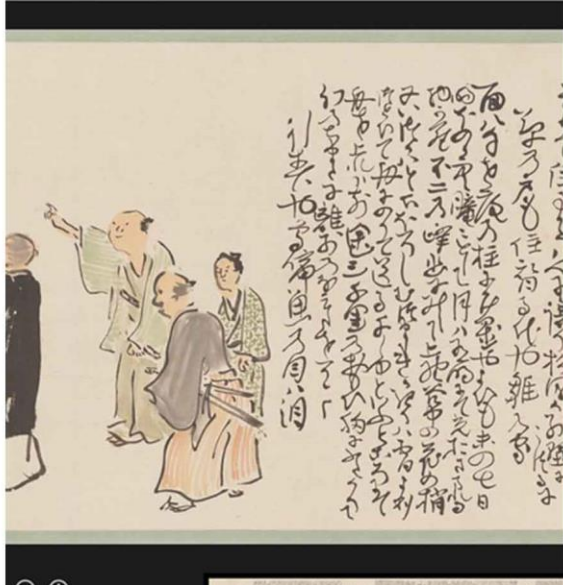
【た】
田一枚補て立去柳哉

【な】
夏陣や兵どもが夢のあと
夏山に足跡を拝む首途かな
野を横に馬ひきわけよほととぎす

【は】
風流のはじめやおくの田植うた

【ま】
松しまや鶴に身をかれほとぎす 曾良

【や】
行春や鳥啼魚の目は泪
世の人の見付ぬ花や軒の栗



Copyright © ITSUO ART MUSEUM. ALL RIGHTS RESERVED.

本件に関するお問い合わせ先

□制作責任者 仙海 義之(上席学芸顧問)

公益財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館 〒563-0058 大阪府池田市栄本町 12-27

Tel. 072-751-3865 Fax. 072-751-2427 E-Mail: itsuo-museum@hankyu-group.jp